令和7年産なんかん米[コシヒカリBL]栽培基準

項目	標準栽培(3割減栽培) 実践内容									
土づくり	稲わらすき込 と ニュー米スター (またはその他土づくり資材)									
施肥 (kg/10a)	A		B		C		D		E	
	越後の輝き 有機30元肥 (比重約0.8)	25	越後の輝き 有機30スー パー元肥 (比重約0.8)	40	なんかん 穂垂 側条 専用 (比重約0.9)	25	発酵ケ イフン	30	発酵ケ イフン	60
	越後の輝き 有機30穂肥	20			越後の輝き 有機30穂肥	20	越後の 輝き 有機30 元肥	20	なんかん 穂垂 側条 専用	20
	穂肥施用時期の葉色診断と高温予想を参考にしたうえで追肥施用を検討 ※化学肥料由来チッソ4.9kg/10a以内									
化学肥料 窒素量	3.4~4.2 (+追加穂肥施用) (稚苗配合・べんとう肥含む、10aあたり20箱使用想定)									
	標準型			除草重視型			殺菌重視型			
種子消毒	タフブロック もしくは テクリードCフロアブル ①									
育苗	ナエファイン ①									
耕起前 除草	——			ラウンドアップマックスロード①			——			
除草	初中期一発剤 ②~④			初中期一発剤 + 初期 または 後期処理剤 = ⑤まで			初中期一発剤 ②~④			
病虫害	リディア NT 箱粒剤 ① 本田殺虫剤 ① 本田殺菌剤 ①~②			リディア NT 箱粒剤 ① 本田殺虫剤 ① 本田殺菌剤 ①~②			GP オリゼリディア箱粒剤 ② 本田殺虫剤 ① 本田殺菌剤 ①~②			
農薬 成分数	6 ~ 12 成分 (○囲み数字の合計) ※上限: 12成分									

※A、B、C、D、Eや重視する防除の型は選択です。上記を基本にして、地域性や前年病虫害発生状況により使用農薬を加減してください。

※上記の肥料設計は、地域慣行栽培基準から減算して、化学由来窒素分の上限としてお示ししております。

圃場状況や生育状況に合わせて肥料の加減をしてください。

※元肥一発肥料は分施体系に比べ肥料効率が高いため、分施体系より窒素成分で1~2割減らしてください。また、出穂期10日前の葉色が基準値を下回る場合は、窒素成分で1kg/10a程度を追肥してください。

※稲の生育状況、病虫害の発生状況により使用資材が変更となる場合があります。